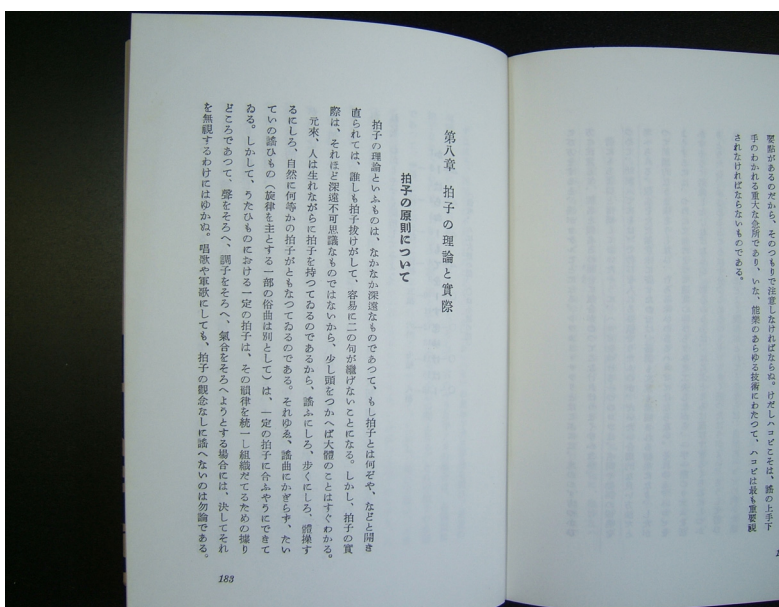
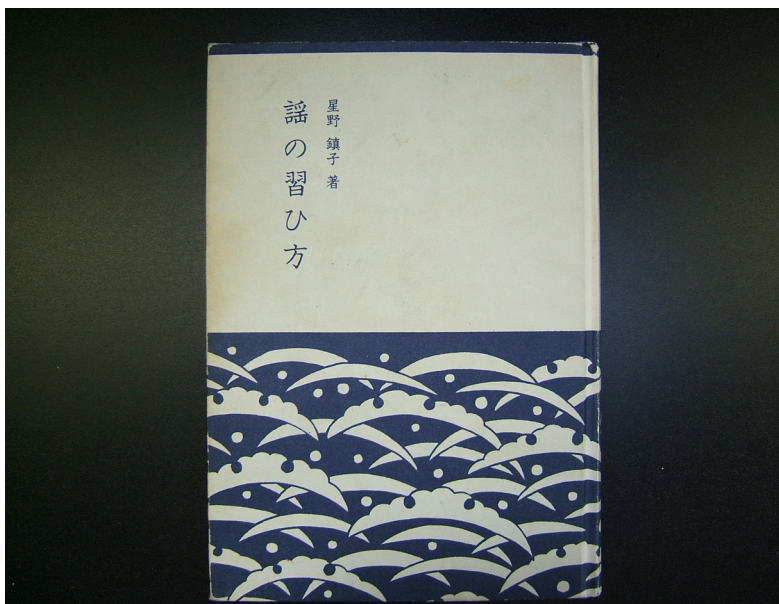


星野鎮子 『謡の習ひ方』

謡を学習する精神と重要なポイントを指摘する。地拍子を規範として最初に学習する教程がしりぞけられる。「気合によつて自然に嵌まるのこそが本当の生きた拍子なのであつて、嵌めるのは拍子の形式的な概念をもつてあそぶにすぎない」と明言。世阿弥の「調子を忘れて拍子を知れ」についても「いづれこのことばのつぎへ書き足すはずの、『拍子を忘れて無心になれ』といふ大事の一句が隠されて居るものと解釈すべきであろう」と言う。謡における拍子の理想的な存在位置を見通した名言である。



標題 内題：—

標題紙：謡の習ひ方

奥 附：謡の習ひ方

その他：謡の習ひ方（表紙・背）

著者 奥 附：星野鎮子

その他の場所：星野鎮子（標題紙・表紙）

出版 版 次：第五版

出版地：東京

出版社：能楽書林

出版年：昭和54（1979）

その他の場所：—

形態 冊 数：一冊 頁 数：二四二頁

寸 法：19×13（cm）

状態 写本版本の別：版本 現物複写の別：現物

備考 初版は昭和一八（一九四三）年。